

令和2(2020)年度第3回栃木県行政改革推進委員会（書面開催）に提出された主な意見等

| 推進項目 | 主な意見等 | 意見等に対する考え |
|------------------------|---|---|
| 県民、企業等との連携・協働 | <p>・情報化の進展とともに、近年大学ではデータを使って講義及び調査することが多くなっている。宇都宮市のまちづくり提案等で市のオープンデータを活用しており、県のオープンデータを活用することも今後増加すると思う。 県民が県政に積極的に参加することにより、栃木県に活力が生まれ、イメージの向上につながると思われる。この行革プランが栃木県の魅力向上に役立つことを期待する。</p> <p>・指標8で、県の条例・規制・要項・要領等に基づく行政手続に係る添付書類等の見直し手続数500件を目標にしているが、添付書類の省略・簡素化はもちろん、規制本体についても、産業活性化と土地利用規制とのバランスを配慮し、栃木県規制改革推進指針が形骸化しないよう、規制緩和の観点からの見直しも含めて検討していただきたい。</p> | <p>・県民や企業等の利便性の向上を図り、県全体の活力を高めていけるよう、オープンデータの公開や規制の見直しを推進していく。</p> |
| ICT利活用等による新しい行政スタイルの確立 | <p>・コロナ禍で明らかになった通り、感染拡大のような緊急時に困窮した世帯に迅速な支援が出来なかった反省と、今後のワクチン接種を踏まえ、マイナンバーの利用範囲を拡大し、迅速に国民生活を守るセーフティネットの仕組みを早急に作る必要があると考える。</p> | <p>・現在、県では、今後のマイナンバーカードの利用範囲拡大も見据え、全国に先駆けてマイナンバーカード取得100%達成を目指す運動を展開しており、県民・事業者の方々に広く御協力いただきたい。</p> |
| 全ての職員が能力を発揮できる職場づくり | <p>・女性が安心して働ける環境づくりを進め、女性の活躍促進を進めていくことが必要。</p> <p>・指標13 女性管理職の割合（課長補佐級職員に占める女性の割合30%）の指標は、令和2年4月1日現在の職員に占める女性の割合30.9%に近い数字であり妥当と考える。よって、指標を達成できるよう、意欲と能力のある人材の積極的な登用や適性な人事評価制度・昇格制度の設計及び運用に期待する。</p> | <p>・女性職員が県行政の幅広い分野や様々な立場で活躍できるよう、行革プラン2021の取組を進め、指標の達成を目指していく。</p> |
| 財政の健全性の確保 | <p>・公表資料「栃木県の財政状況」はグラフや図が多く分かりやすいが、数字や用語の意味の理解までは、一般の県民には難しい部分があると思われる。 県の財政状況を広く県民に理解していただくために、今後、デジタル県庁を目指していく上でも、紙媒体の資料公表にとどまらず、解説動画の作成など（例えば取組内容No.32「財政状況の分析及び中期財政収支見込みの作成・公表」の各種データの意味など）を検討してみたいかと思う。</p> <p>・コロナ禍は昨年1月の国内患者発生以来、日本の経済や社会に大きな打撃を与え、将来に向けての課題を突き付けている。この災禍は一過性のものでなく、直接の感染被害はワクチンの効果が明確でないことを考慮しても数年はかかり、それが与える社会的、経済的影響は長い将来にわたって続くことが憂慮されている。 こうした中、持続可能な行財政基盤の確立に向けての対応策の内容に目新しさはなく、これまでの基本政策を羅列した印象がぬぐえない。未曾有の事態であり、しかも時間の制約があったことは想像するが、それでも「とちぎ行革プラン2021」と「プラン」を掲げている以上は、コロナ禍への財政対応に具体的な計画性を少しでも示していただければ良かったと思う。</p> | <p>・県政に関する理解を深めていただくことは、県民がそれぞれの視点や立場から、県政や地域課題の解決に参画していただくにあたり大変重要であるので、参考とさせていただきます。</p> <p>・取組内容No33「歳出構造の転換」において、「次期大綱の推進期間中に当初予算における財源不足額を概ね実質収支の範囲内に収める収支均衡予算の編成を目指す」旨の目標を実現するには、取組項目17「歳入確保に向けた取組の推進」及び取組項目18「徹底した歳出の見直し」を徹底的に実施する必要がある。このため、新たに設けた取組内容No40「国庫補助金等の積極的な活用」において、コロナ対策のための国の臨時交付金等を含め、国庫補助金等の積極的な活用を掲げるなど取組を強化していくが、御指摘のとおり現時点ではコロナ禍が本県の社会経済に与える影響の全体像が不明瞭なため、今後の具体的な進捗管理が重要と考えており、引き続き行政改革推進委員会で御意見をいただきながら進めていく。</p> |
| 全般 | <p>・現在の経済社会情勢を反映した適切な内容になっていると思う。目標値等を設定しているので、確実に実行することが重要であると考えます。</p> <p>・次期行革プランは、以前の量的削減の行革ではなく、メリハリを効かせ、行政の「質」に着目した「内面的な行革」となっており、時宜を得ていると考える。委員会も活発な意見のやりとりがあり、有意義であった。</p> | <p>・コロナ禍の影響も含め、社会経済情勢の変化のスピードが速い中、適切なマネジメントの重要性が一層増していると考えており、引き続き行政改革推進委員会で御意見をいただきながら進めていく。</p> |